

第25回道東ブロック中学校秋季軟式野球大会『大会特別規則』及び『申し合わせ事項』

1. 『競技規則と競技方法』

試合は全て「2020公認野球規則」、「競技者必携2020」および「大会特別規則」のもとに行う。

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は7イニングスとする。
- (2) 得点差によるコールドゲームは、「5回終了以降7点差」とする。ただし、決勝戦には適用しない。
また、降雨・暗黒によるコールドゲームも、5回終了をもって正式試合とする。
なお、5回終了前までに降雨・暗黒およびその他の事情で試合続行不可能となったときは、翌日の第1試合に先だって再試合として行う。また、5回終了以降同点の時は、特別継続試合として行う。
(特別継続試合は、もとの試合の中断された箇所から再開し、出場者や打順も同一でなければならない。
規定によって認められた選手交代は認められる。)
降雨・暗黒等の天候状況による試合続行の可否判断は、大会運営本部と審判団との協議による。
- (3) 7回終了時同点の場合は、8回・9回の2イニングスは以下のような打順によるタイブレークを行う。
それでも勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決める。

【タイブレークの定義】…最終回の最終打者の次の打者を1番打者として無死1、2塁の状態から攻撃を行う。走者は1塁が最終回最終打者、2塁走者には最終打者の前の打者が入ることとなる。
--
- (4) 背番号は、1～20とし、原則としてポジション別とする。

2. 『大会特別規則』

《試合前》

- (1) 出場チームは、試合開始予定1時間前までには球場に到着すること。
 - ① 前の試合の進行状況によっては、次試合の試合開始予定時刻が前後することもある。ただし、開始予定時刻より30分以上は早めない。
- (2) 球場内での練習について
 - ① キャッチボール・トスバッティング程度とする。また、芝生内でのスパイクでの練習を禁止する。
 - ② 球場内のフリーバッティング・ハーフバッティングを禁止する。ただし、バント練習・トスバッティング・ノックをやる場合は、ベンチ前のスペース（土の部分）のみとする。
 - ③ 芝生内でのキャッチボールは、1カ所にとどまて行わないよう留意すること。
- (3) ベンチは、抽選番号の若い方を1塁側とする。
- (4) メンバー表の交換について
 - ① 第1試合は試合開始前40分前とし、第2試合以降は4回終了時に放送をかける。
 - ② メンバー表は主将が3部（ふりがなつき・フルネーム）を本部に提出し、その場で攻守を決定する。
- (5) シートノックについて
 - ① 後攻側から始めて7分間（終了2分前指示）とする。
 - ② 2試合目から、シートノック前のキャッチボール（5分間）を認める。
 - ③ 相手チームがシートノックをしている際、ベンチの外へ出ないこと。ただし、投手のブルペン使用のみ認める。
 - ④ ノッカーは登録者（監督・コーチ）で、ユニホーム着用とする。
 - ⑤ ノッカーのサングラスは認めない。ただし、身体的にやむを得ず使用する場合は、本部に申し出る。
 - ⑥ シートノックには3名までの補助員を認める。服装は、試合着または練習着とする。
 - ⑦ マネージャーが補助員をする場合は、学校指定ジャージとする。
 - ⑧ 部員不足により、部員以外のもの（指導者・引退した3年生）は、ユニホームまたは、学校指定ジャージとする。
 - ⑨ 生徒（部員・マネ）が補助員をする場合は、ヘルメット（両耳）の着用を義務づける。
 - ⑩ 投手のマウンドでの投球練習は禁止する。マウンド上ではシートノックのみ認める。
- (6) ブルペン使用について
 - ① 先発バッテリーには、4回終了後、指定されたブルペンでの投球練習を認める。ただし、試合中のチームの了承を得ること。
 - ② 投球を受ける捕手は、プロテクター・ヘルメット・レガース・マスク・スロートガード・ファウルキャップの着用を義務づける。（※マスク等は身に付け、地面にはおかないこと）

(7) 用具等について

- ①選手のテーピングは、試合前メンバー交換の際に必ず大会本部に許可を得ること。ただし、投手の指先へのテーピングは一切認めない。
- ②手袋は、黒または白一色のものを使用すること。
- ③バットは木製バットおよび全日本軟式野球連盟公認(JSBB)バットを使用すること。
- ④グラブのひもについては、5cmを越えないこと。長い場合は切るか、縛って短くする。
- ⑤打者のサポーター、マウスピース、エルボー、レッグガードは使用してもよい。ただし、試合進行に支障のないように使用すること。

《試合中》

(1) 選手全般・指導者について

- ①自軍ベンチ側のファールボールは、速やかに拾いに行き、ボールボーイに手渡すこと。ボールボーイは両チームが行う。尚、両耳ヘルメットの着用を義務づける。
- ②攻守の交代は迅速に行い、先頭打者とコーチは円陣には参加せず、所定の位置につくこと。
- ③攻守交代で、控え選手がベンチへ戻ってくる野手を迎える際、必要以上にベンチからはなれた場所まではでないこと。
- ④攻守交代の際、守備側控え選手は、ベンチ内またはベンチ直前で声だしをすること。
- ⑤メガホンはベンチ内1個とする。
- ⑥控え選手は、試合中はベンチ内にいること。
- ⑦バットボーイは、登録選手が行うこと。尚、両耳ヘルメットの着用を義務づける。
- ⑧選手応援については、相手選手や審判団を誹謗するような言動は慎むこと。
- ⑨中学生にふさわしくない言動や行動があれば、その試合の出場を停止する。(審判団・大会本部から監督への指示で自主的に出場を停止する)
- ⑩1塁および3塁コーチには必ず登録選手がはいること。また、その際は危険防止のため打者用ヘルメット(両耳)を着用することを義務づける。
- ⑪試合終了後の挨拶で全てを完了とし、ベンチ前や本部への挨拶は必要ない。
- ⑫スポーツマンらしいプレーやマナーに心がけること。
- ⑬ルール適用に対する疑義申し出は、監督または該当選手に限る。また審判員に対しての抗議はできない。
- ⑭選手交代の申し出は、監督が行うこと。
- ⑮申告敬遠に関しては適用を認める。

(2) 投手について

- ①各イニングの投手の練習球は、初回7球、2回以降3球とする。(状況によって変更あり)
- ②投手は、投手板(プレート)についてサインを見ること。また投手からのサインは禁止する。
- ③公認野球規則【5.10原注】(同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない)は本大会では適用しない。
- ④試合中の無用なボール交換は慎むこと。
- ⑤投手の投球制限については本大会では適用しない。
- ⑥投手はボールを、グラブや身体、着衣で摩擦をしないこと。(素手でボールを摩擦することは可)

(3) 捕手について

- ①公認規則6.01(i)の適用について、中学校野球では『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。規則適用の解釈]
 1. 走塁妨害を適用するのは、『あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できた』と判断できる場合である。
 2. 捕手が走塁妨害を犯したにもかかわらず、瞬間的に「アウト」のコールをした場合でも、改めて「オプストラクション」の宣告をしない。
 3. 走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は、試合を停止したうえ、捕手に対して厳重注意すること。
 4. 捕手を含めた野手がボールを保持する前に立つ位置は、次の走路以外の場所とする。

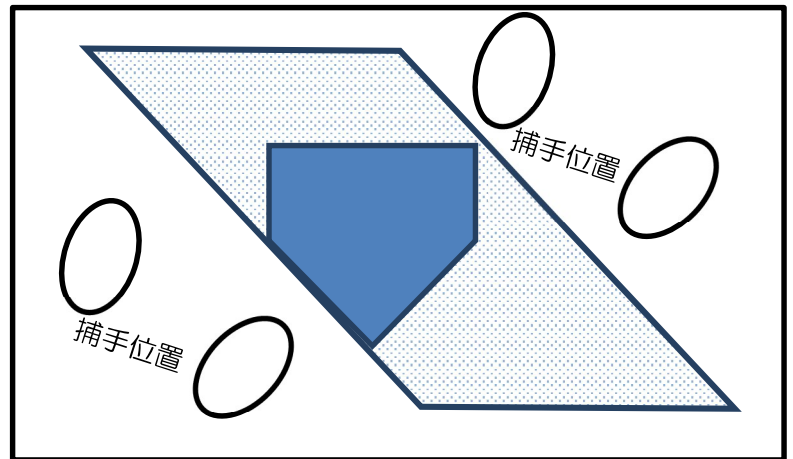
[規則適用の解釈]

1. 走塁妨害を適用するのは、『あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できた』と判断できる場合である。
2. 捕手が走塁妨害を犯したにもかかわらず、瞬間的に「アウト」のコールをした場合でも、改めて「オプストラクション」の宣告をしない。

3. 走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は、試合を停止したうえ、捕手に対して厳重注意すること。
4. 捕手を含めた野手がボールを保持する前に立つ位置は、次の走路以外の場所とする。
5. ボールを保持しているときは、走路上に移動してタッグしてもよい。
※競技者必携 アマチュア野球内規⑩危険防止（ラフプレー禁止）ルール参照
- ②危険防止のため、捕手には必ずレガース・ヘルメット・プロテクター・マスク・スロートガード・ファウルカップの着用を義務づける。
- ③投球練習時の控え捕手についても同様にする。

【本塁上における走路について】

・本塁に関しては、走者が走り抜けることも可能なので、本塁の延長線上（後方）も走路（本塁前方）とみなされる。このため、本塁をまたいで（本塁を開けている状態）位置することや本塁の延長線上（後方）に位置することも走者との接触につながるため許されない。



(4) 打者について

- ①イニング最初の打者については、ダートサークルの中に入って投手の練習球を見たり、タイミングをあわせて素振りをしたりしないこと。また、捕手の後方で、投球を見たり、待機することは禁止する。
- ②次打者は、必ずウェイティングサークルへ入り、バット1本まで持ち込むことができるが、プレイの状況に注意し、適切な処置をすること。
- ③ウェイティングサークルへのバット・マスコットバットの持ち込みは差し支えないが、プレイの状況に注意し適切な処置をすること。（グラブ・鉄棒・バットリング・スプレー類の持ち込みは禁止）
- ④四死球などで出塁する打者は、バットを投げずに、その場に置くか次打者やバットボーイに手渡すこと。
- ⑤打者は、バッターボックス内でサインを見ること。
- ⑥攻撃側の次打者以外は、ベンチから出て素振りをしてはいけない。
- ⑦両耳ヘルメットの着用を義務づける。

(5) 走者について

- ①打者が出塁した際、手袋はそのままつけておくか、ポケットにしまうこと。コーチャーへの手渡しは禁止する。
- ②両耳ヘルメットの着用を義務づける。
- ③危険防止のため、スライディングのときスパイクをあげたり、故意または意図的に乱暴に捕手や野手に接触してはいけない。【5.09（3）試合中の禁止事項⑥（ラフプレー禁止）ルールによる】
- ④突然の事故が起き、一時走者を替えたいときは、審判に申し出て、審判団が必要と認めたときは、これを許可することができる。なお、この場合は、軟式野球連盟・特別規則を適用する。

(6) 野手について

- ①ボール回しは、野手の定位置から速やかに行うこと。（状況によって変更あり）
- ②ランナーへの砂かけ行為、空タッグや必要以上に力を加えたタッグを禁止する。
- ③野手が打球を処理する以外にランナーの前に立ち止まり、ランナーの視界を遮る行為は禁止する。ただし、守備位置につくためにランナーの前を通り過ぎることは致し方ない。

(7) タイムについて

- ①監督がマウンドに行ける回数の制限について「マウンドに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。

- ②ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「(7)①.」と同じ行為であれば回数に数える。
- ③監督が1試合にマウンドに行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレーク方式は、1イニングに1回行くことができる。
- ④監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合）は、投手は自動的に交代しなければならない。また、2度目の監督タイムで交代した投手は、他の守備位置につくことが許される。なおこの場合、他の守備位置についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。
- ⑤捕手または内野手が1試合に投手の所へ行く回数は、3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、1イニングに1回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、選手・監督のタイムは、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。公認規則 5.10(m)(3)「サインの確認」であっても上記の回数を超えてマウンドに行くことはできない。
- ⑥攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦（タイブレーク方式を含む）は、1イニングに1回とする。
- ⑦守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。（攻撃側のタイムとしては、カウントされなくなる。）
- ⑧攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。（守備側のタイムとしては、カウントされなくなる。）

《試合後》

- (1)勝ちチームは、次の試合のフィールドイング後にグラウンド整備を行うこと。
- (2)試合終了後の挨拶で全てを完了とし、相手ベンチや本部への挨拶は省略し、次の試合のためにベンチを速やかにあけること。ただし、挨拶の帰り際に自チームの応援団に挨拶することは認める。

《その他》

- (1)ベンチ入りについて
 - ①登録選手は20名とする。
 - ②登録選手以外のベンチ入りは、当該学校長・監督・コーチ2名以内のほか、スコアラー(生徒)1名、マネージャー(生徒)2名以内とする。
 - ③合同チームの場合、チーム事情により「コーチが3名」となっても構わない。
- (2)選手・指導者等の服装等
 - ①監督・コーチ・選手ともに同一ユニホームとする。ただし、合同チームはお互いのチーム帽子、ユニホームでも構わないが、背番号は統一することとする。
 - ②監督・コーチ・選手のスパイク（指導者のシューズ）は、黒もしくは白の同一色とすること。
 - ③ベンチから出ることのない引率的立場の女性コーチはジャージ可とする。
 - ④スコアラー・マネージャーが女子生徒の場合は、学校指定ジャージ着用も可とする。
 - ⑤ストッキングは、アーチが見える形状とし、ハイカットタイプやソックス一体型のものについては認めない。
 - ⑥ユニホームのパンツの裾はしっかりと折り、ストッキングははっきり見えるようにはくこと。
 - ⑦ロングパンツは認めない。
 - ⑧選手の子タンプルス（ネックレスの類）、リストバンドの使用は認めない。
 - ⑨選手の頭髪・身なり・言動・態度は、中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合前後においてもスポーツマンらしくすること。
- (3)球場使用にあたっては、選手・保護者・チーム関係者ともに公共施設の使用であることを十分に理解し、使用上の注意事項、マナーやエチケットには十分留意すること。
- (4)大会中の負傷等については、各チームで応急処置ができるように準備しておくこと。
- (5)本大会参加者は、大会運営上必要なプログラム・掲示板・ホームページ及び記録集への氏名・所属・学年・その他必要事項の記載について了承するものとする。